

# 九州キリスト教社会福祉事業団 事業団だより

(発行)

社会福祉法人  
九州キリスト教  
社会福祉事業団  
〒871-0162  
大分県中津市永添2744  
「いずみの園」内  
電話 (0979) 23-1616(代)  
E-mail:  
sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

## 東日本大震災の惨事によせて

社会福祉法人  
九州キリスト教社会福祉事業団

理事長 多田 一三



「これは何者か。知識も無いのに、言葉を重ねて神の経綸(けいりん)を暗くするとは。」旧約聖書 ヨブ記第38章2節

突如、東北関東地方を襲った言語に絶する東日本大震災の巨大地震や大津波と、更に思い掛けない原発からの放射性物質の流出の甚大な被害は、私にとって理解出来ない衝撃的な出来事でした。連日のように、家屋や家族を失った人々が不自由な避難生活を強いられる姿の新聞記事や生々しいテレビの報道が続いていますが、悲しみで思わず涙ぐむ毎日です。自然の災害というには余りにも酷い大惨事で、この現実を信仰的にどう

受け止めて良いかわからなくなっていました。思い悩む内に、旧約聖書のヨブ記に気がきました。

ヨブ記は人間の苦しみを問いつけた古代オリエントの知恵の伝承を集めた知恵文学です。なぜ人はこの世で苦しみ、悩まなければならないのか。しかもなぜ、何の理由もなく悲惨なことが身に起こることがあるのか。このような人生に果たして意味などあるのだろうか。この世界そのものが不条理にできていて、正義なる神などいないのではないだろうか。この問題を正面から究極的に取り上げているといわれています。(新共同訳旧約聖書註解Ⅱ)。ヨブ記38章2節



いずみの園 since1978

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大きいなるものは愛である。

コリントの信徒への手紙 I 13:13

### いずみの園の サービス・コンセプト (私たちの取り組み)

- ① アメニティ(快適主義)  
快適なサービス、快適な環境、笑顔のサービスを提供します。
- ② ヒューマニティ(人間主義)  
心と体の自由を尊重一人ひとりの尊厳性を大切にしたいサービスの提供を行います。
- ③ ローカリティ(地域主義)  
地域と共に歩み、地域の福祉拠点としての役割を果たします。

と42章3節に「神の経綸」と記されています。新改訳聖書には「神の計りごと」になっています。人の知の及ばぬ神の計りごとです。この世界には私達人間には究めることの出来ない神の計画とその実現の御業があるのです。知らないことを知りつくしているかのように思っている人間の無知と傲慢に気付かねばなりません。ヨブ記は神とヨブとの対話と論争形式で書かれています。ヨブが到達した結論の神はヨブがつくつた偶像でなく、人知ではかり知ることの出来ない神でした。

この度の大惨事に神は必ず私たちと悲しみを共にしているはずで、神は私たちに耐えられない試練にあわせることはなさらず、それに耐えられるよう逃れる道をも備えておられます。原発からの放

射線漏れも、この世に完全なものはないということが証明されたのです。大震災の被災者の皆様の日も早い復興を心からお祈り申し上げ、神を信じ、隣人を愛する平和な社会を目指したいと思えます。私たちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたにたにありますように。



社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 2011年度 法人本部事業計画

1 法人の基本理念に基づくキリスト教社会福祉の展開と実践

社会保障関係予算の財源不足、福祉領域での規制改革が今後とも検討され、制度の再編やサービス提供主体の多様化がすすみ、今、社会福祉法人の存在意義が問われています。企業や医療法人、NPO法人のサービスが乱立する中で、社会福祉法人の先駆性、公益性、さらにキリスト教社会福祉の独自性を発揮し、真に地域住民のサイドに立ったセーフティネットの構築を推進します。

当法人の設立以来の基本理念は『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する(マルコによる福音書12章33節)』の聖書のみ言葉に基づく愛と奉仕の実践です。今年度もこの理念を掲げ、法人を生み出した母なる教会とともに歩み、地域の人々の人格、人権、生命を尊重し守ります。そのために職員一同、専門性と技量を深め利用者に良質なサービスを提供します。

2 重点目標

- (1) 法人の使命(ミッション)の明確化
①キリスト教社会福祉の理念の啓発
②社会福祉法人の本来の姿である公益性を有する事業推進を図り、先駆的な事業展開を進める。
③キリスト教の施設として、心と魂のケア(スピリチュアルケア)の研修に取り組む。
(2) 経営
①法人の財政基盤とガバナンス(組織統治強化、法人の財政基盤を充実しガバナンス機能を強化して経営の安定化を推進する。また、後援会組織を再編成する。
②施設の効率的・自立的運営の推進
経済が停滞しているなか、全施設は効率的・自立的経営を目指すとともに、事業の多角化を指向し、事

業の選択と集中を図る。
③九州キリスト教社会福祉研究所の機能強化
ドイツ・デアアコニー事業団との交流を行う。
④日本キリスト教団九州教区、大分地区教会との交流

3 法人本部事業計画

- (1) 4 組織
(2) 役員
(3) 評議員会の開催
(4) 監事の監査
(5) 役員研修
(6) 後援会活動の強化
(7) 事業団だよりの発行

(2) 役員

- 理事長 多田一三
常務理事 富永健司
理事 齊藤昭夫
齊藤昭夫
廣安慎太郎
木村真彦
東島勇気
末瀬昌和
山口貞嘉

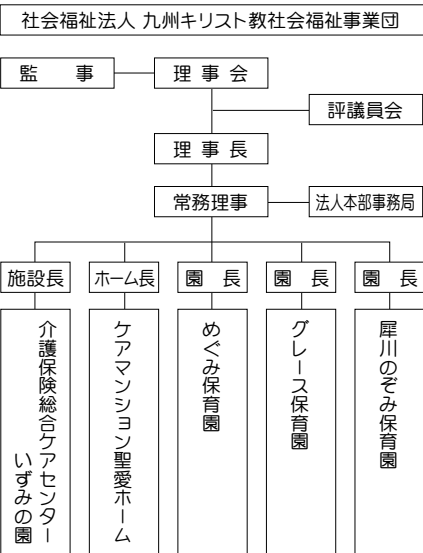
(3) 監事

- 評議員 多田一三
廣安慎太郎
多田玲子
多田真智子
江口敏一
野村一美

(4) 事務局

- 有馬健
藤本泰治
小松証子

5 組織図



(5) 実施事業、施設・事業所名

Table with 2 columns: 事業 (Business) and 施設・事業所名 (Facilities/Business Names). Lists various services like nursing insurance, day care, and residential care.

後援会、研究機関

- 九州キリスト教社会福祉事業団後援会
九州キリスト教社会福祉研究所
所長 多田一三
所員 河島幸夫 山城 順 白井 進 江口敏一
瀧口 真 堤 健生 富永健司 袖潤三枝子

## 介護保険総合ケアセンターいずみの園 2011年度基本方針

「地域包括ケアシステムの推進」—いずみの園これまでの20年とこれから— 常務理事 施設長 富永健司

### 介護保険前10年「福祉元年」

世界有数の高齢社会が予測され始めた1989年(平成元年)、3合同福祉審議会において「今後の社会福祉のあり方について」が審議され、福祉は大きな転換期を迎えることとなった。この年、福祉8法の改正が行われ「福祉元年」と称された。同じ年、初めて将来の数値目標を設定した「高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略」いわゆる「ゴールドプラン」が制定された。94年(平成6年)、「21世紀福祉ビジョン」が策定され、それに沿って「新たな高齢者介護システムの構築をめざして」が発表され、「自立支援」「利用者本位」「サービスの選択」を骨子とする公的社会保険制度である介護保険の原型が出現した。翌95年(平成7年)、社会保障審議会の「公的介護保険の創設勧告」が行われ、97年(平成9年)12月9日、介護保険法は成立し、2000年(平成12年)4月、介護保険は正式にスタートした。介護の事業が措置費(税金)から介護報酬による経営の時代へと大きく転換された。いずみの園では昭和53年事業開始以来、社会のニーズに応じて積極的に事業展開を行った。特養100床、ケアハウス、大分県第1号のデイサービス、ホームヘルパー、訪問入浴、訪問給食など、特に在宅サービスに力を入れ今日の基礎が築かれた。この頃(99、H11年度末)、職員数144名、総収入7億5千2百万円であった。

### 介護保険後10年「多機能化、企業化」

高齢者介護を社会全体で担う介護保険制度は国民に定着し、国民生活に不可欠の制度となった。政府の規制緩和と民間参入により介護ビジネスの観点もあってサービスの量は格段に整備され競争の時代となった。いずみの園は02年、クリニック、リハビリセンター、障害者デイ、障害者生活支援センターエマオなど医療、障害を組み込み、06年には全国的にも例の無い戸建有料老人ホームを完成、多機能化総合化を実現した。また、かきぜサポートセンター事業を開始、老人デイ、障害者デイに加えて07年児童クラブ事業、10年には小規模多機能居宅介護、グループホームを開設し地域包括ケアの拠点作りをスタートさせた。介護保険の主旨は「住み慣れた自宅で最後まで暮らせる」在宅サービスの整備充実であったが、利用者のニーズは施設入所が先行し、待機者は42万人を数えるという。それは、施設が24時間介護の安心に対して、在宅サービスは断続細切れサービスで、とくに高齢者にとって夜間が不安であった。いずみの園ではこの点にいち早く着目、2010年、夜間対応型訪問介護がスタートした。「利用者本位」で「継続的、包括的」な全時間対応のサービス、「地域包括ケアシステム」の幕開けである。いずみの園はこの10年の間、経営基盤の拡大整備、総合化を図り、職員320名、総収入14億円に倍増(99年比)した。

### これからの10年「地域包括ケアシステムの推進」

これからの10年は、日本がかつて経験したことのない、団塊の世代が後期高齢者にはいる「超高齢社会」を迎える。また今日、社会福祉法人が誕生し

て50年、福祉元年から20年、介護保険が発足して10年が経過し大きな節目の年となった。厚労省と経営協は報告書「社会福祉法人経営の現状と課題」の中で、「2015年」「2025年」の課題として「多角的経営、規模の拡大」「合併、事業譲渡」そして「質の低い法人、経営者の退出」を啓示した。新たな福祉経営時代の到来である。経営力、資金力、マーケティング、ガバナンス、人材力、サービスの質、法人本部の機能強化が問われるようになった。また、厚労省は第5期介護保険事業計画(H24-26)で「地域包括ケアシステムの推進」を打ち出し、在宅サービスの推進を目指す。より小さい生活圏域(中学校区)の中で「医療、介護、予防、住まい、生活支援サービス」を要援護者(高齢者、障害者、児童)に包括的に提供するというものである。施設も地域資源、住宅のひとつと見なし、将来はケアの外部化を予見している。いずみの園では地域包括ケアの中心となる「小規模多機能居宅介護」「24時間地域巡回型訪問介護」の事業をすでに立ち上げ、さらなる展開を計画する。これらの事業は、市の認可指定による独占事業であり、今後の事業経営に大きな影響をもたらすものと思われる。これまでの20年は、これからの10年のための準備期間とみなし、なかならず、これからの5年は法人にとって最も重要な期間と捉えられる。当法人の理念である「キリスト教の愛と奉仕の精神」を高く掲げ、これまで一貫して進めてきた「アメニティ(快適主義)」「ヒューマニティ(人間主義)」「ローカリティ(地域主義)」のコンセプトをさらに強化していく。

### 重点課題

1. 基本理念、コンセプトのさらなる推進
  - ①感動を与えられるサービスの実現
  - ②科学的ケア三本柱「ISO」「サイボウズ」「ちようじゅ」システムの習熟、活用
2. かきぜサポートセンター事業の充実
  - ①障害児日中一時支援事業「マルコ」の開始
  - ②北堀川小規模デイサービス事業の開始
  - ③寄り合いセンター、グループホーム事業の充実
3. 「今津サポートセンターいずみ」の調査、研究
  - ①小規模多機能居宅介護「寄り合いセンター今津」
  - ②小規模デイサービスセンター事業
4. 障害児・者事業の研究
5. 関連事業の統括、法人本部機能の強化
6. 児童養護施設「栄光園」の支援
  - ①栄光園ファミリークラブ(EFC)の設置
7. 中間管理職の育成
8. ワークライフバランスの研究
  - ①リフレッシュ休暇5連休の試行、検討
  - ②事業所内託児所の研究
  - ③職員のメンタルヘルス、チャプレンの活用
9. ドイツ・ディアコニー事業団への職員派遣の実施



### 献金のお礼とお願い

このたびの東日本大震災の被災者の皆様に神様の限らない深い愛と御加護がありますよう心からお祈り申し上げます。本年度も当事業団の働きのために多額の尊い御献金を賜わり心から厚く御礼申し上げます。しかし今回の日本観測史上最大の大惨事は、日本の政治、経済、社会全体に大きな打撃を与えました。今迄長年営々と築いてきた我国の社会保障の根本的な見直しは必至と思えます。私たちキリスト教社会福祉に携わるものは、「神を愛し隣人を自分のように愛しなさい。」との主イエス・キリストの戒めを堅持して、愛の実践に身も心も全てをささげ前進しなければならぬと決意を新たにしています。新しい年度、事業団では犀川のぞみ保育園長が退職され新しい園長が就任しました。これで各施設の創設以来の施設長が全員かわり、新しい体制になりました。創設時の施設長や教会の信徒達が筆舌に尽くし難い苦勞の末、今日の施設や事業団があることを忘れてはなりません。「新しいいぶどう酒は、新しい皮ぶくろに入れよ」とのイエス・キリストのみ言葉に従いどんな困難にも耐え、真のキリスト教社会福祉の先駆けになるよう新たな決意をしています。色々と新しい事業の開設にも取組み中です。今後共皆様の絶大なご支援とご協力と共に尊いご献金を賜わりますようお願い申し上げます。

二〇一二年四月

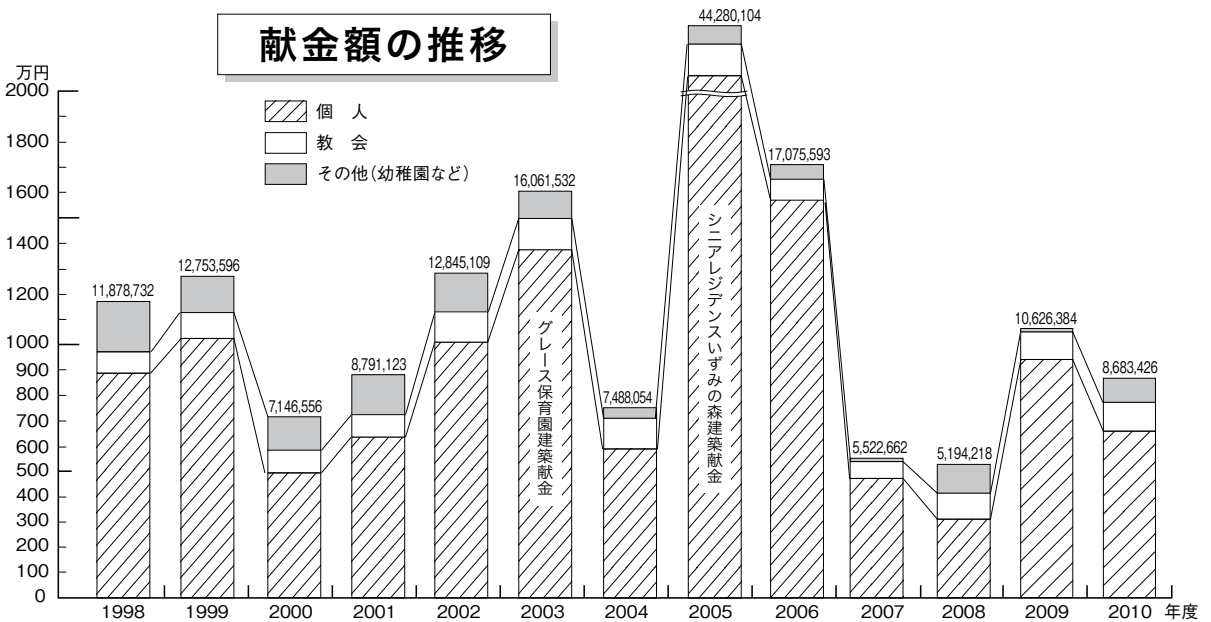
理事長 多田 一三

### 献金額の推移

単位:円

1998年度	11,878,732
1999年度	12,753,596
2000年度	7,146,556
2001年度	8,791,123
2002年度	12,845,109
2003年度	16,061,532
2004年度	7,488,054
2005年度	44,280,104
2006年度	17,075,593
2007年度	5,522,662
2008年度	5,194,218
2009年度	10,626,384
2010年度	8,683,426

### 献金額の推移



「人をつかわして牢の中でヨハネの首をはねさせた」マタイ14:10

いずみの園チャプレン  
堤 健生



主イエスが公の場に現れる前に活躍していたヨハネという人物がいました。この人は修行僧の様な人で人々に罪を悔いあらためて生きるように勧め、人々に洗礼を授けていました。イエス様自身も彼から洗礼を受けています。

このヨハネの最期を記したのが今箇所です。彼は痛烈な権力者批判をして牢屋に入れられてそこで首を切り落とされてその命はたました。この場面は、オスカーワイルドの戯曲「サロメ」で彼の首がお盆にのせられて、宴の席で皆の前に届けられるという大変ショッキングな光景が登場します。

このヨハネには多くの弟子がいたようですが、この最期はあまりにもあつげなく、何とかなないものでしょうか。私達は命があつげなく失われる、その厳しい現実の様なものをこのところに感じる事ができます。

しかし、聖書はこのヨハネの残した生きざま、その大切なものを、実は全く違う形で引き継がれていたという事を語るのではありません。それはイエスという人物によって。人は死によって全てのものを失い、死に際して何もたずさえていくことはできません。しかし人の生きざまは、それを必ずどこかで、誰かが引き継いでくれているのです。

### ケアマンション 聖愛ホーム

ホーム長 袖潤三枝子



現在97歳から団塊の世代まで、身体状況や生きて来られた時代、家庭環境等様々に異なつた50名の方々が入居されています。最近 は家族間や地域でも人の絆が切れ、無縁社会と呼ばれたりしていますが、ここでは血縁、地縁では得られない新たなご縁が築かれていきます。それぞれが自ら育みながら交わり、安心、温もり、信頼を深めていかれるのです。人は一人では生きていけません。神様と人に繋がることによって自分の存在がより確かで豊かなものになるのではないのでしょうか。縁あつてホームの大きなひとつの屋根の下で共に暮らす生活は、朝夕顔を合わせ、食卓を囲み、会話が溢れます。これこそ共に住むからこそ生まれるきずなであり、隣人愛でしょう。元より私たちに愛がたりませんが、神様の愛をいただきつつ互いに心を寄せ合い、祈りあつていきたいと思ひます。  
「愛はすべてを完成させるきずなです。  
（コロサイの信徒への手紙3章14節）」

### めぐみ保育園 (大分東教会)

園長 大継 徹朗

皆様方のお祈りによって2010年度を恵みのうちに終えることができましたことを心より感謝申し上げます。九州教区の祈りによって大分東教会が誕生し、現在地に保育園が開園して44年になります。2011年度は園児数98名、職員数26名からのスタートとなりました。新入園児も与えられ、安定した環境の中で職員も日々の保育の業に勤しんでおります。

昨年度は、一時預かり事業において、年間延べ1200名程の子どもたちが集い、地域における子育て支援にも貢献することができたと思ひます。今年度も新入園児を迎え、職員一同、神を信じ、隣り人を愛する気持ちを忘れずに保育園に集う子どもたちと保護者の方々のために力を尽くして参りたいと思ひしております。事業団の諸施設と共にめぐみ保育園を覚えて、これからお祈りお支えいただけましたら幸いに存じます。



### 犀川のぞみ保育園 (犀川教会)

園長 橋本 高幸



卯月1日、ようやく桜が咲きはじめてました。10名の卒園児を送りだし、新年度は、新入園児6名を加えて29名、学童保育の25名と共に計54名で発足しました。

開設以来60名の定員で保育園は運営して参りましたが、新年度より、地域社会の出生児減少に伴いその定員を40名に変更し、更に、園長の交替も含めて、保育園運営も新時代を迎えています。開設以来48年を経過しましたが、児童福祉の業を手掛りに、犀川の開拓伝道は「種蒔き伝道」という気の遠くなるような伝道を進めて参りました。開拓当初の会堂建築を通して「昼間は空いている会堂を保育園に開放せよ」との地域住民の要請に応じて無認可の児童保育施設を開設した訳です。園長交替を契機に新しい時代に相応しい保育園創造のためにお祈りください。

### グレース保育園 (中津教会)

園長 廣安慎太郎

3月19日、第37回卒園礼拝がもたれ、38人の園児がグレース保育園を卒園しました。今年度は新入園児16人を迎え、新年度がスタートします。新年度の年主題は「信じる―見えないものに目を注ぐ」と掲げました。聖書の箇所は「わたしはちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」という、コリントの信徒への手紙II 4章18節のみ言葉です。子どもは自ら育つ力を宿しています。この力を信じていくことが大切です。幼児期は人間としての基礎を培う大切な人格形成期です。人の心の根源的な部分が幼少期に形成されます。子ども達の「内発的なもの(一人一人の中にある『良い種』)」を、みずみずしさに満ちている幼児期に、最も大切にしてあげたいと思ひます。心豊かな幼児期をグレース保育園で過ごせるように、神様の愛に支えられつつ、職員一同、力を合わせたいと思ひます。

子ども達の心を育んでいくためにも、私達の心を成長させ、心の目が開かれるようにと願っています。どうぞ覚えてお祈りいただければ幸いです。

